

レファレンスコード	20170425A
記述レベル	東北大学／個人・関連団体文書/関係団体文書
文書群名	パラオ熱帯生物研究所関係資料
原蔵者	元田茂氏（元パラオ熱帯生物研究所研究員・北海道大学教授）
文書群の内容	<p>パラオ熱帯生物研究所は、太平洋学術協会の委員をつとめていた東北帝国大学教授の畑井新喜司の熱心な提案で、日本学術振興会が珊瑚礁生物学の研究を主要な目的として設立、経営した組織であった。研究所所在地は当時国際連盟の日本委任統治領であったマイクロネシア群島（南洋群島）西カロリン諸島パラオ諸島コロール島アラバケツ部落附近で、昭和9年（1934年）6月に設置されている。その後、南方占領地域の拡大に伴い、海軍はマカッサル（セレベス島）に海軍総合研究所を設置することとし、本研究も移して環境科学部へと再編されることとなったため、昭和18年（1943年）3月に廃止されたのだが、戦況の悪化のため、実際に新しい研究所で研究活動を行うことはなく終戦を迎えた。その活動期間は約10年と短かったものの、研究所の発行した欧文誌Palao Tropical Biological Station Studiesと邦文誌「科学南洋」により、研究成果は世界に発信されていた。</p> <p>本資料には、パラオと周辺諸島の地図やパラオ熱帯生物研究所を往来する人々の記録、日本の占領下にあったパラオでの研究所運営の実態や生活の様子などが、詳しくのこされている。また初期の熱帯生物学研究が如何に行われたかを知る上で価値のある史料となっている。</p>
年代	1933～94年
数量・編成	5点のファイルからなる。文書群は、①パラオ熱帯生物研究所関係資料（パラオ熱帯生物研究所日誌・『岩山会会報 第一号（一九三九）～第九号（一九六九） 原本』・『日本学術振興会 パラオ熱帯生物研究所 岩山会会報 第一号（一九三九）～第一七号（一九八七）』の三簿冊）と②元田茂資料（『南洋群島ノート（戦前）』・『南洋群島地図（戦前）、ノート（戦後）』の二簿冊）の二つの資料群から構成されている。このうち①の日誌は、パラオ熱帯生物研究所で世話役にあった研究員たちが昭和8年（1933）から昭和18年（1943）の間、内地との往復者の記録や日々の出来事を記帳したものである。①の二つの会報に関する簿冊は、本研究のメンバーによって構成された岩山会の会報を綴ったファイルである。②は元研究員であった元田茂が、戦前、戦後に関し、自身の研究に関する資料を綴ったファイルである。
伝来	パラオ熱帯生物研究所日誌は、記帳者の一人であった元研究員の加藤源治氏（東北帝大卒業生）の計らいで帰国する研究員に託されて日本に送られ、加藤氏帰国後元田茂氏あてに送られて数冊のノートに記されたものを製本（1977年）した。その後加藤氏の手許で保管し、加藤氏の没後1992年に元田氏へ渡り、1993年に阿刀田研二氏（東北大学教授）が一部清書を行った後、再び1994年から元田氏自宅にて保管されていたが、同氏の没後2015年に大森信氏（東京水産大学教授）に委譲され、2016年当館に寄贈された。他四つの簿冊は元田氏が作成したもので、元田氏によって（一財）熱帯海洋生態研究振興財団の阿嘉島臨海研究所（沖縄県座間味村）に寄贈された後、大森信氏(同研究所長)によって、2017年当館に寄贈された。
データ公開日	2018年3月30日
公開条件	当館利用規則に基づき公開いたします。個人のプライバシーにかかる情報について、必要に応じ規則にもとづいて利用を制限することがあります。利用制限の区分が「要審査」となっている場合、審査に時間がかかる場合がありますので、閲覧希望の方はできるだけ事前にお申し込み下さい。
利用・複写条件	原資料を閲覧していただきます。複写は利用者本人または業務委託による写真撮影となります。電子複写はできません。

パラオ熱帯生物研究所関係資料									
整理番号	タイトル		作成者	作成年代	形態	内訳点数	概要	備考	
I	①パラオ熱帯生物研究所史料								
I	1		パラオ熱帯生物研究所日誌	元田茂	1933年～1994年	冊子	1点	研究所日誌や測量図などを、後に元田茂がファイル形式にまとめた。	
I	1	1	(研究所日誌の基礎情報)			紙	10点	岩山湾の鳥瞰図や1994年に追加された研究所の沿革、「日誌について」など、日誌記帳者名簿	測量図は劣化が著しい
I	1	2	(畑井新喜司のあいさつ文章稿／岩山湾測量図)			紙	4頁	所長宿舎が新設された際の挨拶文と初期に作成した岩山湾の測量図	末尾に関係者の住所一覧と、研究員の来島・退島記録あり。
I	1	3	重要事項抜粋	元田茂	平成6年2月	紙	56頁	昭和8年12月～昭和18年6月12日までの重要事項を抜粋	オリジナルと思われる
I	1	4	1 研究所日誌	元田茂	昭和11年5月4日～6月28日	紙	22頁	元田茂氏が日誌担当	オリジナルと思われる
I	1		2 研究所日誌	元田茂	昭和11年6月29日～10月3日	紙	30頁	元田茂氏が日誌担当	オリジナルと思われる
I	1		3 研究所日誌	元田茂	昭和11年10月3日～昭和12年1月6日	紙	32頁	元田茂氏が日誌担当	オリジナルと思われる
I	1		4 研究所日誌	元田茂	昭和12年1月6日～3月6日	紙	24頁	元田茂氏が日誌担当	オリジナルと思われる
I	1		5 研究所日誌	元田茂ほか	昭和12年3月6日～昭和13年4月3日	紙	78頁	元田茂氏、山内氏、島津氏が日誌担当	オリジナルと思われる
I	1		6 研究所日誌	阿刀田ほか	昭和13年4月4日～昭和16年7月19日	紙	116頁		阿刀田氏による清書版
I	1		7 研究所日誌	加藤源治？、大平辰秋、熊野	昭和16年7月17日～昭和18年2月8日	紙	60頁	加藤源治氏？、大平辰秋氏、熊野氏？が日誌担当	オリジナルか？
I	1		8 研究所日誌	熊野？、加藤源治？	昭和18年2月9日～6月20日	紙	16頁	熊野氏？、加藤源治氏？が日誌担当	オリジナルか？。会計報告等もあり。
I	1		9 研究所日誌	島津、阿刀田研二	昭和13年4月4日～昭和16年7月16日	紙	142頁	島津、阿刀田、加藤氏が日誌担当？	オリジナルか？。会計報告等もあり。
I	1	5	重要事項抜粋		昭和8年12月～昭和12年7月20日	紙	54頁		オリジナルと思われる。研究員来島退島記録リスト等のほか製本時(1977)の領収書貼付。最後の4頁分、劣化が著しい
I	1	6	第29回岩山会のイラスト			紙	4点		裏表紙裏に岩山会会報9号の表紙・奥付が貼付。背表紙も含む。
I	2		『岩山会会報 第一号(一九三九)～第九号(一九六九)原本』	元田茂		冊子	1点	元田茂によって会報がファイル形式にまとめられている。	
I	2	1	岩山会々報 No.9	羽根田弥太	1968年12月	冊子	24頁	岩山会の会報。東京発行。	左端2点ホチキス留め。印刷薄れ、書き込みあり。元田氏の原稿はドラフトか、紙貼り付けや鉛筆書きによる修正あり。写真貼り付け。
I	2	2	岩山会々報 第8号	新谷武衛	1955年10月	冊子	39頁	岩山会の会報。上野発行。	縦じ穴下側をガムテープで補強。鉛筆の書き込みあり。表紙に元田氏の印あり。
I	2	3	岩山会々報 第7号(復刊)	内海富士夫	1954年11月	冊子	40頁	岩山会の会報。白浜発行。	表紙・裏表紙の劣化が顕著。ブループリント。ペンの書き込みあり。表紙に元田氏の印あり。
I	2	4	岩山会員名簿		1954年10月	紙	2頁	畑井新喜司を会長とした会員の名簿。	縦じ穴部が劣化。「昭29.10.15夜本郷三丁目 うな重」ほか鉛筆の書き込みあり。
I	2	5	岩山会員名簿		1953年10月	紙	2頁	畑井新喜司を会長とした会員の名簿。	上部2点ホチキス留め。折れ部劣化。書き込みあり。

I	2	6	(岩山会員による共同募金に関する案内(一部))		1953年か?	紙	2頁	畑井新喜司祝賀記念品代、堂本貞一見舞金、山川・山城弔慰金について協力依頼。	ペンの書き込みあり。
I	2	7	(畑井新喜司祝賀記念品贈呈の募金に係る発起人依頼)	新谷武衛	1953年8月12日	用箋	2枚	元田茂に送られた手紙。畑井新喜司にバイノキュラーを贈呈するための募金について発起人となるよう依頼する内容。	日本学術振興会の用箋。ペンの書き込みあり。ユネスコ関連で八丈に渡る件に関する連絡。
I	2	8	岩山會報 第六号	東京岩山会	1942年5月10日	冊子	6頁	岩山会の会報。	右端1点ホチキス留め。劣化。鉛筆の書き込みあり。
I	2	9	岩山會々報 第3号	加藤源治	1940年3月	冊子	41頁	岩山会の会報。PALAU-EDITION。	右端2点ホチキス留め。表紙にペンの書き込みあり。表紙に元田氏の印あり。巻末に加藤氏の印あり。
I	2	10	岩山會 會報 第二號	岩山会東京事務所	1939年10月	冊子	19頁	岩山会の会報。	右端2点ホチキス留め。綴じ穴下側をガムテープで補強。表紙に元田氏の印あり。
I	2	11	パラオ熱帯生物研究所 岩山會會報	羽根田弥太	1939年6月	冊子	6頁	岩山會會報第一号。この時点では会の名前は仮称。	右端2点ホチキス留め。綴じ穴下側をガムテープで補強。表紙左側に赤ペンで「岩山會會報第一号」と書き込みあり。その他、ペン・鉛筆で発行年月の書き込みあり。表紙に元田氏の印あり。
I	2	12	(所長宿舍等の新築に関する報告)	パラオ熱帯生物研究所	1941年11月15日	紙	1枚	死名は「岩山會員各位」。南洋庁内務部長・堂本貞一氏、海軍駐在武官・緒方大佐の御尽力による、とある。	綴じ穴下側破れ。
I	2	13	岩山會會報 第五号	松谷善三 東北岩山会	1941年11月	冊子	30頁	岩山会の会報。浅虫発行。	右端2点ホチキス留め。文字が不明瞭な箇所あり。ブループリント? 綴じ穴下側破れ。表紙の右下が、隣の会報(第4号)の背表紙の一部と接着している。表紙右上に「元田様」と鉛筆の書き込みあり。墨塗りの箇所あり。
I	2	14	岩山會々報 第4号 皇紀2600年奉祝	京都岩山会	1940年10月	冊子	15頁	岩山会の会報。京都発行。	表紙には元田氏の絵を写真プリントしたものが貼付け。綴じ穴下側破れ。表紙左上に「元田」と鉛筆の書き込みあり。
I	3		『日本学術振興会 パラオ熱帯生物研究所 岩山會會報 第一号(一九三九)～第一七号(一九八七)』	元田茂		冊子	1点	元田茂によって会報がファイル形式にまとめられている。	
I	3	1	日本学術振興会 パラオ熱帯生物研究所(1934-43) 岩山會會報 復刻版 第1-6号	元田茂	1981年1月	冊子	39頁	戦前、戦中の岩山會會報1号(1939)～6号(1942)を復刻して1冊にまとめたもの	
I	3	2	岩山會々報 第七号(復刊)	元田茂	1989年2月	冊子	22頁	岩山會會報7号(1954年11月 内海富士夫・編集)の復刻版	
I	3	3	岩山會々報 第八号	元田茂	1989年3月	冊子	30頁	岩山會會報8号(1955年10月 新谷武衛・編集)の復刻版	
I	3	4	岩山會々報 No. 9	元田茂	1989年4月	冊子	36頁	岩山會會報9号(1968年12月 羽根田弥太・編集)の復刻版	
I	3	5	岩山會會報 第十号	元田茂	1972年9月	冊子	45頁	岩山會會報10号(編集・元田茂)のオリジナル	
I	3	6	岩山會會報 往きて還らぬパラオの日々 第11号	元田茂	1977年6月	冊子	47頁	岩山會會報11号(編集・元田茂)のオリジナル	元田茂氏による経費の報告と研究所日誌保管依頼場所を相談するプリントが一枚はさまっている。
I	3	7	岩山會會報 第十二号	元田茂	1980年5月	冊子	62頁	岩山會會報12号(編集・元田茂)のオリジナル	

I	3	8	岩山会会報 第13号	元田茂	1981年7月	冊子	53頁	岩山会会報13号(編集・元田茂)のオリジナル	正誤表が一枚はさまっている。	
I	3	9	岩山会会報 老人の国 第15号	元田茂	1985年11月	冊子	35頁	岩山会会報15号(編集・元田茂)のオリジナル		
I	3	10	岩山会会報 (旅路の果) 第16号	元田茂	1987年2月	冊子	69頁	岩山会会報16号(編集・元田茂)のオリジナル		
I	3	11	岩山会会報 颯の最後ッ屁 第17号	元田茂	1987年2月	冊子	63頁	岩山会会報17号のオリジナル		
I	3	12	元田茂「かつて在りしパラオ熱帯生物研究所 —その使命と成果—」	元田茂	1981年	冊子	23頁	論文別刷。『太平洋学会誌』第12号、7-29頁。		
I	3	13	岩山会会報 これが最後の最後 第18号	元田茂	1993年12月	冊子	47頁	岩山会会報18号(編集・元田茂)のオリジナルが挟み込み		
II			②元田茂資料							
II	1		『南洋群島ノート(戦前)』	元田茂		冊子	1点	元田茂によってまとめられたファイル。		
II	1	1	(パラオ-ヤルウト間の航海プランクトン調査関連資料)	元田茂か	1936-1948年	綴り	29点	データシート、スケッチ、位置図、調査記録、個体数カウント表/研究発表用原稿/英文原稿のドラフト/調査ノート「パラオ、ヤルウト間プランクトン定量」/資料名が記された厚紙(茶封筒の一部?)	劣化が進んでいる資料あり、挟み込みあり	
II	1	2	(高瀬貝に関する情報まとめ)	元田茂か	1956年	袋	45点	研究関連情報をまとめたノートのページ、大判の紙へのメモ/資料名が記された茶封筒	一部、綴じから外れたページあり	
II	1	3	全ク不用ノ寫眞 パラオ、元田	元田茂	1992年か	袋	8枚	研究メモ/写真:横浜丸での集合写真、調査風景、島民との記念撮影、パラオの風景など	写真は退色がみられる。研究メモはプランクトンに関するデータのまとめか?写真は一度黒い台紙に貼られていたものを剥がしたと思われるもの多数。メタデータなし。ただし、1枚の写真はメモ帳に張り付けられメモ書きあり(「東さんのボート(パラオ)軍艦島へ行った時」)	
II	1	4	(熱帯の有用生物に関する情報まとめ)	元田茂か		冊子	8ページ	ノート8枚分熱帯の有用生物に関する情報	用紙の周辺部分が劣化。白紙3ページ。	
II	1	5	サイバン支庁勢要覧		1936年頃か	綴り	4点	南洋庁サイバン支庁の要覧。	付箋あり	
II	1	6	(新聞切抜と絵葉書のスクラップ)	元田茂か	1982年頃か	冊子	27ページ	新聞切抜:南洋での商船の漂流に関する記事、加藤源治氏に関する記事/日本丸の絵葉書	新聞切抜は、ルーズリーフに糊付け	
II	1	7	土語に現はれたる島民心性	山口祥吉		綴り	5点	手書き謄写印刷	茶変色、劣化	
II	1	8	(南洋航路関連資料)	元田茂か	1934年~1935年	綴り	3点	「裏南洋航路案内」/「南洋航路案内」/「南洋線船客乗船賃表」/「南洋航路 新造船 サイバン丸」	一部、綴じから外れたページありやぶれ等あり	
II	1	9	(新聞切抜のスクラップ)	元田茂か		冊子	12ページ	新聞記事:カプトガニ及びナメクジウオの話題/メモ書き(June 21, 1935 ○風丸ニテmessengerノ落下速度)	ルーズリーフ1枚の両面に糊付け	
II	1	10	南洋群島生物関係文献目録	元田茂		綴り	19点	手製の表紙・裏表紙(茶封筒を利用か)とノート	メモ書き挟み込みあり。白紙5ページ。	
II	1	11	(南洋関連雑情報)	元田茂か	1936年~1937年	紙	1枚	研究関連メモ/調査用地図/新聞切抜/「台湾聖公会会報」/「日本丸概要」/海王丸、日本丸の絵葉書/パラオ熱帯生物研究所の封筒裏面切抜	ルーズリーフ8枚分に資料糊付け。	
II	1	12	白鳳丸ノタメノネット(サラシ)	元田茂か	1936年か	綴り	14点	プランクトンネットの寸法を示した図		
II	1	13	(元田茂調査記録・原稿等)	元田茂か	1936年			調査記録/「ボナベ島に於ける氾濫」/「病氣日記」/「パラオ本島巡回記録」/「横浜からサイバンまで(昭十、五、筑後丸にて)」/「ベリリュウ旅行」/「曆記念史学地理学論叢」/「二、三の欧文文献」/「昭和十年六月白鷺ニテアウロンニ行リ(仲宗根氏、林一正氏 山川 等ト)」/「昭十、十、二十四(木)○○氏ヨリ」/「タカセ貝」/「病氣日記」草稿/「パラオ-ヤルウト旅行」草稿	ホチキス止めあり 原稿用紙に手書きの原稿群多数(日付あり)	

II	2		『南洋群島地図（戦前）、ノート（戦後）』	元田茂		冊子	1点	元田茂によってまとめられたファイル。	
II	2	1	昭和11年頃のコロール市街	元田茂		紙	1枚	手書きの鳥瞰図	挟み込み。コロール市街の主要施設21地点を図示。
II	2	2	〔岩山会報のコピー〕	元田茂		紙	3枚	（手書き地図の説明のために同封されたものか）	挟み込み。
II	2	3	〔岩山湾周辺地図・調査地点図〕	元田茂		紙	1枚	手書き地図。色付きで地図内は英語表記。	付箋つき。挟み込み。 凡例に（図中の）①～⑩ハ海中照度、海中plankton silt量ヲ測定セル地点/a, b, c・・・ハcoralノ发育状態ヲ調査セルcoral slope とある
II	2	4	〔昭和12年頃のコロール〕	元田茂	1937年7月	紙	1枚	岩山湾を中心としたコロール島周辺の手書き鳥瞰図。	挟み込み。コロール市街の主要施設名、周辺の小島や水道、サンゴ礁名なども記載
II	2	5	〔パラオ熱帯生物研究所のロゴ〕	S. M.	1935年	紙	1枚	手書きのロゴ	オリジナルか
II	2	6	岩山湾鳥瞰図	元田茂	1937年6月	紙	1枚	岩山湾の調査地点、調査ブロックを示し、色付けした手書き鳥瞰図	折れ目に破れがみられる。挟み込み
II	2	7	THE MAP OF IWAYAMA BAY (Kororu I., Parao Is., Spath Sea)	元田茂		紙	1枚	手書き地図と印刷された地図上に作図した地図	表面に汚れ。挟み込み。 片面は手書きの太平洋島嶼域広域地図、片面は岩山湾を中心とした白地図に活字を張り付けた地図（英語表記）
II	2	8	PALAU 地図		1931年～1968年	袋	5枚	「パラオ諸島」／「濠州北部及附近諸島書諸海」／「パラオ港附近／マラカル水道及パラオ港」／「ネラサカ島 縮尺五千分ノ壺」／メモ：「図など 6葉 東京事務局へ 送ってる」	茶封筒は破れあり、劣化。「パラオ諸島」は折れ目に大きく破れあり。「濠州北部」折れ目に若干破れあり、付箋つき。「パラオ港附近」に付箋付き。「ネラサカ島」は青焼き。書き込み多数。
II	2	9	昭和11年頃のコロール	元田茂		紙	1枚	コロール市街のペン書き鳥瞰図	「グループNo. 1」の図と類似する。 裏面にコロール周辺の鉛筆書きのラフ No. 1の下書きか
II	2	10	〔メモ エリサラさんご〕	元田茂		紙	1枚	絵本「エリセラさんご」（文：水木桂子（Katherin Muzik））に関する情報のメモ	「倉田洋二氏より」とある
II	2	11	パラオのエルム紳士たち	元田茂		綴り	13枚	原稿用紙に、パラオ時代日常生活について具体的に記述した草稿	
II	2	12	〔太平洋学会寄稿原稿の図・写真〕	元田茂	1981. 10. 13	袋	5枚	写真が張り付けられた用紙に、トレーシングペーパーを重ねて赤鉛筆で修正の指示あり	太平洋学会からの封筒のまま綴じ込み
II	2	13	〔太平洋学会寄稿原稿関連資料〕	元田茂	1981年	紙	14枚	太平洋学会寄稿原稿のための文献リストやメモ書き、手書きの図、図・写真のコピー	
II	2	14	〔パラオ・サンゴ礁関連資料〕	元田茂		袋	10枚	「コロール市街図 昭和13年4月1日現在」／「昔のパラオ諸島」のコピー／パラオやサンゴ礁に関する論文等の図をコピーして切り抜いたもの、など	「コロール市街図」、論文コピー切抜の1枚に付箋付き。 地図に白紙を糊付けして作図したものの1枚
II	2	15	〔太平洋学会からの案内葉書と名刺〕	元田茂	1981年	紙	2枚	太平洋学会のセッションの案内の葉書（宛名書きなし）／「太平洋学会 常務理事・事務局長 中島洋」の名刺	

II	2	16	(研究者・学会からの連絡混在資料)	元田茂	1982～1983年	冊子・紙	5点	今島実(1983)調査紀行 ミクロネシアへ海の動物を求めて、自然科学と博物館 50(2): 55-58の別刷と送付状/Springer社より1982年に新刊なる国際サンゴ礁学会誌 "Coral Reefs"の投稿規定(案内)とその封筒/William Hamner氏より、パラオのマリンレイクに関する文献の送付状(のみ)	
II	2	17	"Short history of marine science in Palau before the World War II"	元田茂	1979年	冊子	25ページ	元田茂氏のレポートのコピー	A4片面印刷 25ページ Submitted at Palau Research Institute Symposium April 1-8, 1979, Koror, Palau, Western Caroline Islands
II	2	18	(パラオ・ミクロネシア関連資料)	元田茂	1983年～1985年	紙	2枚	新聞切抜とシンポジウムの案内	
II	2	19	(パラオ博物館におけるアートショーの案内)	元田茂	1974年	綴り	6枚	パラオ博物館ディレクターのHera Ware Owen氏からの案内状とエア・ミクロネシアのスケジュール	ホチキス留めあり Art Show "As the Japanese artist interpreted Micronesia, 1914-1944" 1974年11月6日開催
II	2	20	(Circum-Pacific Energy & Mineral Resources Conference関連資料)	元田茂	1974年	冊子・紙	6点	カンファレンスの案内資料等と元田氏のプレゼンテーション確認用シート/発表用原稿	発表のタイトルは"Calculated Daily Zooplankton Production of Coral Reef Waters in Palau, Western Caroline Islands, based on the Zooplankton Quantitative Sampling made in 1935-37 and 1938" (7ページ、日付はJune 17, 1974)
II	2	21	(戦前・戦中のパラオ関連情報)	元田茂		紙	9枚	パラオ熱帯生物研究所関連の情報のほか、当時の南洋に関する情報のまとめ	
II	2	22	博物館だより No. 21	斎藤報恩会自然史博物館	1984年7月1日	冊子		斎藤報恩会自然史博物館だよりの現物	